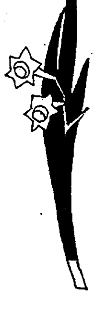
連帶責任的協力を生かせ



川崎造船所　大塚好

現下日本人の使命

銃後の護りを萬遺漏なからしむるといふことゝ、今次の事變をして我が國發展途上に於ける必要にして、然かも十分なる要素であり、これによつてのみ我が國の對外的對內的基礎が築かれるものであるといふものたらしめることは我々日本人に課せられたる刻下の重要使命である。

恐らく、この銃後の護りを萬遺漏なからしめるといふことに就ては、先づ我々は國民を信頼しても宜いと思ふ。といふのは我々日本人は、一旦緩急あれば義勇公に奉ずることを本質とする國民であり、如何なる生活をし、思想を持つてゐる人でも「いざ鎌倉」といふ場合には、爆彈三勇士になり得るものであるからである。我々はしてもしなくとも宜いといふ時には、兎もすると非協力的なところがあるが、いざ然うしなければならないのだとなると、必ずそれに應ずることが出來るといふことは、現に全支の戰線に於て我々の中の出征した者が實證してくれて居る。

今次事變の價値づけ

ところが、我々の歴史は、屢々この事實に對する價値づけといふことには、萬全を期さなかつたことを教へてくれる。このことだけは、もう繰返さなくとも宜いと思ふ。繰返さなくとも宜いと思つても、宜いことに出來ないところに、我々の道德的淋しさがあるのだから、さう一夕一朝には出來ないことであるが、出來ないことはない筈である。

今次の事變の價値づけに示されたる方向は、對外的には、日滿支三國の提携を以て東洋安定の樞軸とし、これを通じて世界平和の確立に自主的に參與することであり對內的には、名實共に「國家は雜然たる利益團體の集合にあらずして、一つの文化的使命を有するところの協同目的體であり、國民は己れの利益を追求する唯物的存在に非ずして民族國家の組織を通じて人類に寄與せんとするところの精神的存在である」といふことを如實のものたらしめることである。

否定し難い利己心

我々は屢々聞き、屢々見、屢々感ぜしめられながらも、然かも如何ともし難いやうな、利己的存在傾向を多分に持つて居る。然うした傾向は文明人には見られない傾向であるが——と三省して見てもそれが實在するといふことは否定することが出來ない。

最近大阪に起つた渡船轉覆事件それは當にこの利己的傾向の一例を示すものである。船頭が、これ以上は乘れないからと言つて制止するのを頑として押しのけ乘り込んだのはよいが、その爲に死んで仕舞ふ。何も死ぬことが目的なら船へ乘るのを急がなくとも宜い筈である。(尤も急いで抑止を押しのけて乘らなかつたら死ねなかつたぢやないかと死んだ人から抗議されるかも知れないが。) 明かにこれは、我々日本人の社會的存在であるといふ自覺が躾みになつて居ないといふことを示すものである。

戰時對策の一つの觀點

我々は目下戰時狀態にあるのを幸ひ、この際日本人からこの傾向を除去すべき自覺と教養を與へるための制度の組織に、スタートすることが必要である。然かもこれは、いくら口を酸くして叫んでも出來る問題ではないから、戰時、國運を賭さなければならないかも知れない戰時であるのを機會に、この戰時對策の遂行の手段として、この自覺と教養を躾け化すべきである。これこそ戰時にのみ出來る戰時對策である。

銃後の護りに潛む利己心

その方法として考慮せられるのは國民の連帶責任的協力に依る銃後の護りの完全化を圖ることである。目下のこの銃後の護りを完全ならしめんとする國民的努力の一特徴は、その連帶責任的協力でなく、即ちそれをするのが當然といふのでなく、それをしたが故に賞讃の的になつて居るといふことである。この傾向は、賞讃の的とならんとして、これを敢てし、賞讃の的にならなければしない、あはよくば、これを機會に自己の利益を計らうなどゝいふものさへ出ないとも限らないといふことである。

隣保思想を組織化せよ！

當然の義務として、これを進んでする傾向を作るために、この銃後の護りをさへも實行させる——此處まで敢てする制度の實施は、それは唯一つ戰爭に要する金は、國民自身に調達させることを計劃することであり、その出征遺家族、戰傷者の問題を、日本獨特の隣保思想の組織化によつて行ふことである。これで始めて事變は單に日本の國際的地位の確保であるばかりでなく、我が國民の社會人としての誕生を價値づけるに至る。勿論この方法は我が國民のこの傾向に基礎を置き、彼等をして、さうせざるを得ざらしめるといふ指導者的聰明と能力を必要とする。勿論イタリー國民の聰明なる指導者がファッショ政治の創造者であり、獨逸國回生起死の手術がナチス政治であつたことゝ同じく、國民の連帶責任的協力と雖も、その民情によつてその誘發方法を考案せられなければならないことは言ふ迄もない。

△社會政策學院　第三十九回　講習終る！

社會問題の大衆教育施設として多年世間の好評を博して居る本會の社會政策學院は、本年九月六日講習を開始して以來、順調に經過して、十二月十日を以て講義を終り、十一日本學院教室に於て修了式を擧行した。[illegible]學院長、町田、長岡各常務理事臨席、[illegible]學院主事開會を宣し、講習經過概要の報告の後、修了證書授與、精勤者表彰をなし、學院長の訓辭、町田常務理事の挨拶あり、之に對し修了生總代藤井軍一君答辭を述べて式を閉ぢた。一同記念撮影の後協調會一階談話室に於て茶話會を開催し歡笑裡に散會した。講習概要次の如くである。

一、講習實日數　七八日
一、修了生人員　四五人　內男四一人　女四人
一、懇談會　二回
一、實地講座　九回
株式會社和光堂東京工場、株式會社並木製作所、製綱勞働組合、日本フォード自動車株式會社、原富岡製絲所、東國敬神道場（一泊）、財團法人啓成社、丸中織物株式會社、東京府機械工養成所、小菅刑務所見學
一、正科講座
現代社會思想批判（河合榮治郎氏）、最近に於ける經濟の動向（土方成美氏）、最近に於ける政治の動向（蠟山政道氏）、社會政策及勞働問題（[illegible]氏）、勞働立法（[illegible]氏）、海外社會運動、我國社會運動、勞働組合運動の動向（[illegible]氏）、無產政黨運動（中川賢一氏）、國家主義運動（坂井隆治氏）、農民運動（山本嚴氏）、協同組合運動（木村重忠氏）、[illegible]、勞働者保護政策（鈴木宗正氏）、勞務管理（[illegible]）、產業福利（長谷川孝之氏）、生活[illegible]、勞働科學（[illegible]）、勞働者教育（大內經雄氏）、社會保險（[illegible]）、職業指導（[illegible]）、農村問題（[illegible]氏）、人口問題（[illegible]）、金融問題（[illegible]）、中小工業問題（美濃口時次郎氏）、社會事業（矢吹慶輝氏）、四郎氏）、社會政策の動向（長岡保太郎氏）、產業平和（町田辰次郎氏）
一、特別講座
社會思想批判（小泉信三氏）、我國人口問題（上田貞次郎氏）、勞資協力の實際（松岡駒吉氏）、非常時の支那の諸情勢（井上謙吉氏）、事變下に於ける我國經濟（小島精一氏）、赤色外蒙、新疆を探る（布利秋氏）、歐米に於ける勞働事情（武島一義氏）、中小工業の現狀とその振興策（山口正彥氏）、農村工業に就て（吉田茂氏）

變質したる我國の人口問題

協調會　左右田武夫

人口動態現勢

內閣統計局最近發表にかゝる昭和十一年の內地に於ける人口動態統計に依れば、その出生總數は二百十萬一千七百六十九人で前年より八萬八千七百三十五人少く同年中に出生した者で屆出洩れとなつたと推定せられる七萬餘を之に加へると約二百十七萬二千人となるが人口千に對する出生率にして見ると二九・九二となり、これは明治三十九年（日露戰爭直後）を除いては嘗て見ない低さを示す。これに對して死亡總數は百二十三萬七十八人であつて前年より六萬八千三百四十二人を增し、屆出洩れのもの約七千を之に加へれば約百二十三萬七千人となり、人口千に對する死亡率は一七・五一となり前年より稍高率となる。

以上の數字により昭和十一年に於ける出生死亡差別自然增加數は屆出洩れ推定數を加へて約九十三萬餘人を算し、人口千に對する自然增加率は一三・二餘を示す事を知る。

人口增加率減退の傾向

斯かる人口動態の樣相は何を物語るか。それは大正九年以降に於て看取される出生率低下趨勢に一層の深刻さを附加すると共に、從來死亡率の低下により漸くその減退を見せずに居た自然增加率保持の次第に困難になれるを示唆し、我國人口が今や產業革命期に於ける增加率急增の華かなりし時代を經過して增加率停頓時代の末期に近く正に減退時代の前夜にある事を示す。

ドイツに於ける增加率減退の經過

出生率の減退に悲く自然增加率減少の趨勢は夙に歐洲大戰後既に歐米に於て問題となり、近時その傾向の深刻化と共に國家的民族的存亡の問題として益々重大化するに至つて居るが我國最近の上述の如き狀勢は果して同樣の運命を示唆するものであらうか。獨逸に於ける自然增加率減退の趨勢は一九一〇年頃を境として急速に進展するに至つたのであるがこの頃に於ける獨逸の出生率は三一・七%死亡率は一七・五%自然增加率は一四・二%を示し、昭和十一年の我國の狀態に比し反つて稍高い位であるが略相似たる狀態にありと云ふべく、その頃に至る迄の變動の傾向に至りては全く符節を合せる如きものがある。而して爾後二十數ケ年を經たる今日獨逸に於ける人口增加は僅かに千に付三・六（一九三三年）と云ふ心細い有樣となり、實際に於ける人口の再生產的能力は既に現存人口數を維持するに足りないとせられるに至つた。英國に比して後進資本主義國であつた獨逸の步める道と更に後れたる新興資本主義國たる我國の步んで來た道とは少くとも人口現象に關する限りは甚だよく似て居たと云はねばならない。

窮乏の原因であつた人口

人口の增加は嘗ては國家の繁榮、社會の進步の基本的條件として歡迎せられて居つた時代もあつたが、やがてそれは貧困の問題に當面し、生活資料の增加と對比せられ、職業の增加、產業の發展と比較せられるに及んで、國家の窮乏、社會の不安の根本的原因であるとさへ看做されるに至つた。そして過剩人口の恐怖はマルサスの人口論以後自由主義的社會、民主主義的國家を全く風靡し盡した。斯る恐怖の下に於て最も多く行はれた事は個人的なる分前を如何にして大ならしめんとするかと云ふ私々なる個人的消極的努力であつた。そして共結果は計らずも國家的民族的死滅への危機となつて現れて來たのである。

「力としての數」である新らしき人口觀

斯くて「殼倉の民」「機械の奴隷」としての人口は新しき角度から見直されねばならぬ時が來た。人口は國家、民族にとつて「力としての數」でなければならないとムッソリーニは叫ぶ。人口は國家民族の一切の擔當者であり、その運命の開拓者であり、その文化の發揚者でなければならないとナチスは主張する。「新しき民族が其地步を獲得する爲には、生存競爭に打勝ち又は少くとも其環境に適應して行けるやうな卓越した肉體的及び精神的なる素質を具備するばかりでなく、尙又發展の可能性を確保するに足るだけの高き出生率を持つて居らなければならない」とイタリーの人口學者デ＝教授は云ふ。斯かる人口政策は樹立せられ、ナチスの人口政策は遂行せられて居る。それは全體主義世界觀より出發した人口政策であると彼等は云ふであらう。然し乍ら現實に於ける自然增加の減退が彼等に民族的なる自覺を與へた事も無視し得ない事實である

人口政策上より見たる非常時

過剩人口に由來する人口の壓力は從來長い間我國の內外諸政策の基本的なる推進力であるとせられて居つたが非常時局特に支那事變の勃發を契機として我國の人口問題は何時しか過剩人口と云ふ古い殼を脫却して勞働力の不足竝にこれが涵養、國民體位、國民保健の向上等の諸問題を共中心的問題とするに至り異常なる變質を遂げた。人口は社會的厄介物より漸く人的資源に昇格したのである。——但しそれは未だ「機械の番人」たるに過ぎないのではあるが——斯かる時恰も自然增加率減退の前夜を暗示する如き出生率の嘗てなき低下に當面したのである。

我國の人口政策は正により意識的積極的且綜合的に見直されねばならぬ秋に到達したと云はねばならない。

○　○

淸和書道會第七回會員募集

民衆の趣味並に實用教育の一端として本會々館でやつて居るものでありますが、今回會員募集をすることになりました。奮つて御入會願ひます。

一、會場　協調會館（市電御成門、又ハ增上寺行線　省線　濱松町下車）
一、講師　高塚竹堂先生外數名
一、講習
◇本科
第一期　第二期　楷書及旅幅書方、行書、草書及額面屛面
第三期　假名獨草、速綿及色紙、短冊書方
第四期　調和體、書翰文
但シ一期ハ五ケ月トス
一、申込期間　二月五日限り
一、講習日時　毎週一回二時間
一、入會金　金壹圓
一、講習料　金壹圓五拾錢
尙詳細は、芝區芝公園協調會館淸和書道會（電話芝之一、一三三番）に御問ひ合せ願ひます。

新刊
昭和十二年版　勞働年鑑
菊判　全一册　約一〇〇〇頁　定價二圓　送料二十二錢
昭和十一年度に於ける日本及海外二十餘國の勞働者農民運動及び經濟政治法制教育等の情勢動向の全貌を總觀し得る世界唯一の國際勞働年鑑
昭和十一年我國產業勞働界槪觀、社會行政、無產政黨運動、內容一般日勞働組合運動、勞働爭議、國家主義運動、消費組合運動、農民運動、小作爭議、勞働者教育、其他海外勞働運動、各國情勢等
振替東京五三七〇四番
協調會